編集後記

編纂委員会が発足してから六年。ようやくにして下巻の編集を終ったので、これまでの経過について概要を述べ〝あとがき〟といたします。

平村史の刊行計画は二十数年前にめばえて、すこしずつ資料が集められていました。郷土史家の高桑敬親さんの「平村誌」「五箇山史考」などの謄写印刷の刊本があり、小寺廉吉先生や杉本寿先生が多年にわたって村内を調べて書かれた好著もあって、村の歴史がかなりよく知られていましたので、機運の熟する日を待つといった状態におかれていました。その後、時代の急速な変遷によって村の内外の様相も大きく移りかわり、過去の姿が忘れ去られ、祖先の文化遺産が次第に影を失おうとしているので、「温故知新」は現代の重要課題になってきました。あわせて村史編纂刊行の機運も熟し、圖書恒遠村長の決断により、昭和五十二年五月に平村史編纂委員会設置条例が制定され、企画観光課が担当して次のように組織いたしました。

編纂委員長　圖書　恒遠（平村長）
編纂委員　石崎　直義（福光町、富山県史編纂専門委員）
同　高桑　敬親（平村上梨、円浄寺住職）
同　野村　藤作（井波町　元井波図書館長）
同　宮崎　重一（富山市　元平村収入役）
同編集主任　高田善太郎（平村下梨　元小学校教頭）
担当課長　水上　信一（企画観光課長）
専任職員　滝本　清（主事　旧姓中川）

最初のころは、どんな村史をつくるか、どこから手をつけていくか、編集方針・計画など立案の模索がつづき、方向はしばしば修正されていきました。

まず、村内調査と役場資料を調べて〝これまでに知られている文書史料と、発表されている文献を参考にすれば足りるであろう。〟とくらいに、考えていたのが、村内に未発見史料の所蔵の多いことや、川合文書・菊池文書の中にも未発掘史料が予見されて、史料の再検討が必要になりました。とくに県史編纂室のご好意によって五ヶ山史料を借覧したところ、一層既存史料だけでは不十分だとわかりました。

また、各方面から多様な意見・要望が寄せられました。なかにはこの機会に五箇山総合史をとの示唆もありましたが、点在する史料の多さと内容の複雑からして無理であり、それよりも確かな史料に基づいた編纂に重点をおくことにいたしました。

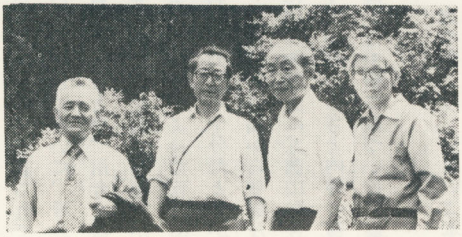
次の年より、いよいよ本格的な活動に入り、平村国民健康保

険診療所の空き部屋に編纂室が設けられ、高田委員は常勤して主務に当り、野村委員は週五日間を通勤(車で送迎)、他の委員も随時出勤して作業に入りました。

史料集めは村内旧家の古文書調査にはじまり、区長預りの文庫・たんすの底をさらえ、遠くは金沢市立図書館の加越能文庫、富山大学附属図書館、福岡町教育委員会そのほか、村外各所へでかけて古文書を見せてもらいました。一枚々々めくってその中から五ヶ山に関係のある箇所を見つけ、一点ごとの題名カードに記入して所蔵別題名目録・分類別目録をつくり、おもな文書史料はコピーさせていただいて整理しました。このことを許してくださった所蔵の方々や管理担当の各位のご厚意に対し、ここに深くお礼申しあげます。

このほか、史料となり得る性格の資料を含めて、カードにとり目録にあげて作成したのが、本巻一三の史・資料目録となりました。

一方では、山崎勝雄・北村信孝・高島克美・九里喜久治・佐渡進一の諸氏に調査と資料採集を委託し、公署関係者や各種団体の協力員の方にも資料の提供をお願いしました。また、区長さん方には「集落調査票」をお渡しして、調べてもらうことになりました。なお、執筆を依頼した先生方にも、しばしばお集り願って、執筆分担の協議と村内調査にとりかかっていただいたりして、多くの方の協力のもとに滞りなく動き出しました。



昭和五十四年七月
村内史料調査
右より
野村委員
宮崎委員
高田委員
石崎委員

私たち委員としても分担をきめ、石崎委員は全体構想と総括に当る上巻の責任者に、野村委員は古文書転写と史料整理に当る下巻の責任者に、高桑委員は自著の根拠となった史料と論考の提供を、宮崎委員は長年の役場勤務の体験から特に役場資料の整備と資料発見に、そして委員高田は諸連絡や文献資料探索にと、各委員とともに力をあわせてとり組みました。

専任職員の滝本(中川)主事は写真資料の作成と整理を兼務、臨時職員に荒木法子、そのあとに中谷克子、古文書転写に佐渡進一の助援などを得て、日常の業務も支障なくおこなわれておりました。

史誌の編纂には大変な日数がかかり、多くの人手によらねばできないとつぶやき、このことをくりかえし嚙みしめながら、遠方から通う者、泊り込みを重ねる者、みなそれぞれに地味な動きのなかで、中味の濃い村史をめざして、地道な努力を続けてきました。

ところが、昭和五十六年の夏ごろから野村委員は健康が勝れず、入院してまもない九月八日急逝という事態が起きました。古文書転写は一応終っていたとはいえ、机上には仕事の続きが残ったままでした。井波町史・庄川町史に続いて平村史を手がけて、これが最後だといって張切っておられたのに、完成をみないで逝かれるとは……、大切な人を失った痛惜の思いと村史発刊の危惧がこもごもに去来しました。

編纂室では、気をとり直して野村委員担当の残りを分担し、下巻の発行を急ぐことにしました。前年に収入役退職の永井貞次郎が専門調査員として、その後新たに編集に参加することになりました。

それからわずか二か月後の十一月、病状も回復して元気に見えた高桑委員も亡くなるという、当村史にとっての不運が重なりました。両委員を失ったのは、大樹に空洞のできた思いでしたが、すでに当村史編纂の骨格が固まっていたこともあって委員は補充しないことにいたしました。

そのころはまだ目次の細部も頁数の配分も定まっておらず、採集した資料の分量を眺めてみると、とても予定の一〇〇〇頁に収まりそうもなく、いかにして一冊にまとめるか、内容選択の問題に悩まされました。従ってそこで迫られた解決は、目次の作成と頁数の割り振りでした。結局は無理につめ込んだのが最後まで尾を引いたようで、書き足りない原稿そのままが印刷にまわり、章節間の脈絡を欠いたり、編集の意図が不明瞭であったりして、却ってあとの校正にひまどりました。

次いで発行する上巻は、巻頭の例言にあげた大綱目次のように、通史としての記述が多くなります。それに比べるとこの下巻は資料中心のようになりました。また、小冊子を集めたようにもなったので、下巻の構成や編集の意図について若干の補足を加えることにいたします。

集落誌には、村民および村落の身近かにある事柄を整理して載せました。村落によっては記録の残る残らないの不同があり、古老の聞きとりにしても記憶に限度があって、故事の掘り出しは意外に手間どりました。記録となれば尚更のことで、昭和初期までの村は変化に乏しく、親から子へ、更に孫へとつながる伝承と地域の連帯で結ばれていた時代なので、伝統と習慣に支配される社会では文書も記録も必要でなかったわけですから、多くは期待できませんでした。項目をあげて区長さんに調査を

依頼しましたが、人それぞれに記憶や記述が確かでなく、再三再四にわたる追認と修正をくりかえしました。もういちど出発点に戻ってやり直したい気持ちと、たくさん調べて書いくださったのにわずかしか掲載できなかった区長さんに対する済まない思いにかられながら、各村落を同じ視角から書き並べて終りました。

しかし、まだ村落毎の民俗性がよく保たれています。それぞれの集落誌が個別に編集されれば、もっと村ムラの生活や家々について細かく書けますから、今後に期待がかけられます。

当平村史では民俗誌の記述（上巻）に頁数が制約されます。そのために民俗資料は別枠に組みました。民俗誌をくらしの歴史とみるならば、変化のはげしい現代にあっては、過去は古いものとして捨て去られ無意識のうちに歴史の証しさえ失ってしまうでしょうから、歴史の証としての民俗資料に目を着けました。過疎現象に見まわれた本村では、ことに書き留めておきたいこと、書き記し残さねばと思うことどもがたくさんありますが、いくつかの例をあげて民俗資料としました。

編注に記してありますが、長谷川和衛、佐伯安一、九里喜久治、野村純一、黒坂富治先生がたのご協力があって、よいものになりました。

史・資料目録と古文書史料の頁数が多くなったのは、ほうぼうでさがし当て、とり貯めた資料カードが増えてこのようになったといえます。執筆の便に備えるという目的のほかに、平村史は単に印刷出版して終るだけでなく、編纂を契機として資料を集積し、子孫に共有文化財として残す事業と考えたからでもあります。そのため文書に仮の固有番号を与え、分類整理する方法をとりました。検索に便利であり保存保管の指標にもなって、これらの資料は後世に生命を保ちつづけるであろうと期待がかけられます。所蔵者・提供者におかれては、みぎの趣旨を了解され、今後さらに有益な方策を発案し保存対策に一層のご協力を切望いたします。

毛筆がき古文書の多くは、読みやすいように原稿用紙に転写してあります。その中から二百点ばかりを選び出して掲載しました。石崎委員はそれを入念かつ厳密に原本と照合して正確を期し、さらに読み下しの便を図って返り点を付すなどしました。他の刊本でみる当該古文書と活字面に相違がでたのはそのためです。

近世（江戸時代）は古文書があって知ることができますが、明治維新後の近代初期では戸長時代の文書を欠いていて、史料空白時代があります。明治二十二年の平村成立以後の資料についても多くはありません。しかし、可能なかぎり資料を見つけて編纂しなければならない立場から、役場書庫の棚ざらえともいえる作業をしました。村民からの資料提供もありました。この点では小さい村、小さい役場が幸いしたといえましょう。

村民ご協力の例は集落誌だけでなく、寿川道場の紙張り戸の破れ目から人名を書いた古文書が見えるとの報せを受け、区長さんに取はがしをお願いしたところ、ていねいにはぎ取って届けられました。苦心して元の帳面に復元してみると、寛文年間以降の「須川村肝煎百姓中諸事算用帳」二十一冊分と「男女人数歳付相改書上申帳」数冊分があらわれました。前崎恒太郎さんは、家改築によって不要となって土蔵入りになっていた紙張りふすまをはぎとったといって、編纂室へ持参されました。これもつなぎ合わせてみると、当地では最も古い文書に属する時期のもので、「前崎まくり十村市助文書」「前崎まくり判方文書」と区分けして追記しました。そのほか六十苅家・池田庄平家・上梨村上家からも、下張りをはがして発見した文書の情報や史料の提供があり、おくれて籠渡村肝煎文書の一部が発見されるなど、旧家にはまだかくれた史料があると予想されます。

山崎宗正さんは、肝煎時代の古文書と家業の酒造記録が未整理のままにあったので、これをよい機会として村史と同じ方式で自家史料の整理をなされ、後日の公開を予想して、自家目録の村史の史料目録に組入れを賛同されました。

まだ一点二点と届けられた貴重な資料（木札・写真・手記・通い帳など）がありますが、一応預りの形で保管してあります。こちらからの呼びかけに対して、多少にかかわらず資料提供や話しかけの情報交換に応じてくださった方は数え切れないほどありました。

次に、政治・経済・社会・文化についての資料は、精粗まちまちでしたが、年代の特色がよくわかる資料もありました。その中から選んで近・現代資料を編集しましたが、村民の興味をひき話題を呼びそうなものをとりあげました。勿論優れた資料だからでもあります。

行財政資料と役員名簿は役場事情にくわしい永井貞次郎の手になるもので、公帳簿をくまなく精査したうえでのものです。平村誕生以来の予算決算額と年毎の内容までわかる一覧表は、予期以上の好資料と自負できます。

明治からの推移変遷を知るのに統計がありますが、初期の統計がなくて当時を知ることができません。少ない統計資料ながらも一連の図表にしてみると傾向が見付かりますが、そこにまた前後のずれがあって数量がつながらない場合がでます。それであっても現時点で集められる限りの統計類から、信ぴょう性の高いものをもってつなぐよりほかにないと思い、可能な限り年次を遡った統計表を作成しました。

上巻の近・現代の記述は、とても全体に亘れませんから、村民に直接かかわりの多かった官公署と各種団体について、時間的経過の視点から概観して要点だけを下巻に載せました。そのつぎにある名簿も上巻の記述を補うものであり、村政に参画した人や部落自治に貢献のあった人々の名を記し止めるのも、こ

の平村史のあり方だと考えてのことです。

美しい山河や恵まれた自然・風物を詠んだ文芸作品や、著名人が訪れて書き記した紀行文・随筆などから、ふるさと平村・郷土五箇山の風情や人情がしみじみと伝わってきます。宮崎委員はそれらの作品をさがして図書館へ通い、亡き野村委員の構想を参考にしてコピーを集め、ファイルに整理しました。残念でしたが五〇頁に見合う分量を選んだあとの原稿は、また元のファイルへ戻しました。

終章に参考文献・図書目録をあげて、この村史が多くの方に利用され、後進者の参考になるようにと希いました。章毎に目次を付したのは利用の便のために、各所に凡例や編注を加えたのもまた、利用者に対する心づかいからです。

最後になりましたが、お世話になった各位や先輩・諸先生がたに対し、編纂室一同の名を連ねて、心からのお礼を申しあげます。また、乱雑な原稿のため複雑になった印刷を引き受け、刊行にご協力ねがった㈱チューエッの岡本本部長、崎田・高沢の両氏に深甚の謝意を表します。

さらに、いまは亡き野村・高桑両委員に下巻の完成を告げてご冥福をお祈りいたします。

昭和五十八年三月

石崎直義
宮崎重一
高田善太郎
永井貞次郎
滝本清
滝本君江

（高田　記）

越中五箇山

平村史　下巻

昭和五十八年　四月　五日　印刷
昭和五十八年　四月十五日　発行

編集　平村史編纂委員会
発行　平村
富山県東砺波郡平村下梨二四六七番地
電話　〇七六三六六—二一三一㈹
印刷　株式会社　チューエツ
富山市上赤江町二丁目八—六

二十四輩順拝図会より転載

五箇和紙使用

『平村史下巻』正誤表

ページ	行	誤	正
口絵 一六		村の北端部	村の南端部
五	杉尾	祭り日四月十八日	四月十九日
五	備考	井頭豊文	井頭克彦
三一	大島	池田喜平	池田嘉平
四九	下出	鉢呂庄一	鉢呂正一
六二	上段	1ウニムキ	1ウエムキ
七四	下段	横池のつづき	猫池のつづき
八八	一五	あるの六字	ある六字
一二九	一一	昭和四十六年	昭和四十五年
一二九	二〇	同年暮	四十五年暮
一三五	一一	一〇年二三日	一〇月二三日
一六八	見座	中島藤三郎	中島藤四郎
一七六	相倉	山本宗三郎	山本栄三郎
一〇〇		猪越	猪越
二一一〜二三五	左上の欄外	合巻作り	合巻造り
二三四	下段八	城オエやデエ	村オエやデエ
四四二	上段末	明治	昭和
四八六	上一三	延宝4・6	延享4・6
五八五	上一四	杉尾村百姓	松尾村百姓
六五二	下段	本覚寺門徒篠崎	篠塚
七〇三	下四	御年貢本壱斗本	御年貢米
七五一	下一七	月ゟ末	月ゟ末
七五五	小来栖	弥七郎	源七郎
七七三〜四	史二五一	配列順不同	配列替え
八二五	下四	自由叶申へハ	自由叶申候へハ
八六〇	上六	善福寺殿	善徳寺殿
八六九	小計	(181・0595)	(181・1427)

ページ	行	誤	正
八七〇	小計	(198・5805)	(198・6829)
八七〇	合計	(379・6400)	(379・8320)
九〇〇	二段	慶応三年12	10
九〇一	合計	113	111
九〇一	一四段	北嶋村重右衛門	重左衛門
九一四		西ノ宮光西寺	西島光西寺
九一四		越前万法寺110	越前万法寺112
九一四		越前万法寺（空白）	越前万法寺2
一〇一六	第九表	月別平均・最高	月別の平均・最高
一〇三二	第九表	月別平均・最高	月別の平均・最高
一〇四五	表その二	資料平村統計一覧表	平村統計一覧表・平村村勢要覧
一〇六三	三二表	二三年生産価格（不鮮明）	16,400
一〇六三	工場名	中島七三郎	出島七三郎
一〇六三	工場名	出島松次郎	出島七三郎
一〇八三		昭和一九年	明治一九年
一〇八三	一段	一九年の沿革概要事項	二〇年の沿革概要事項
一一一一	上段三	副会長坂本義明	村上忠森
一一一八	下二一	三月二〇日	三月二五日
一二二〇	上二二	三月二〇日	三月二五日
一二二二	上二一	年季歌集	年刊歌集
一二二三	上一〇	紫煙短歌	紫苑短歌
一二二四	下一六	北州候国傍	北州侯国傍
一二四九	下八・九	真宗五ケ山史	真宗五箇山史
一二六三	一三、一四	真宗五ケ山史	真宗五箇山史

付表　　年代表　　○数字は閏月

干	支	年号	西暦	年号	西暦	年号	西暦	年号	西暦	年号	西暦
壬	子			4	1432	明応 1	1492	21	1552	17⑩	1612
癸	丑	南北		5	1433	2	1493	22	1553	18	1613
甲	寅	朝朝		6	1434	3	1494	23	1554	19	1614
乙	卯	天授・永和	1375	7	1435	4	1495	弘治 1	1555	元和 1⑥	1615
丙	辰	2 2	1376	8	1436	5	1496	2	1556	2	1616
丁	巳	3 3	1377	9	1437	6	1497	3	1557	3	1617
戊	午	4 4	1378	10	1438	7	1498	永禄 1	1558	4③	1618
己	未	5 康暦	1379	11	1439	8	1499	2	1559	5	1619
庚	申	6 2	1380	12	1440	9	1500	3	1560	6⑫	1620
辛	酉	弘和・永徳	1381	嘉吉 1	1441	文亀 1	1501	4	1561	7	1621
壬	戌	2 2	1382	2	1442	2	1502	5	1562	8	1622
癸	亥	3 3	1383	3	1443	3	1503	6	1563	9⑧	1623
甲	子	元中・至徳	1384	文安 1	1444	永正 1	1504	7	1564	寛永 1	1624
乙	丑	2 2	1385	2	1445	2	1505	8	1565	2	1625
丙	寅	3 3	1386	3	1446	3	1506	9⑧	1566	3④	1626
丁	卯	4 嘉慶	1387	4	1447	4	1507	10	1567	4	1627
戊	辰	5 2	1388	5	1448	5	1508	11	1568	5	1628
己	巳	6 康応	1389	宝徳 1	1449	6	1509	12⑤	1569	6②	1629
庚	午	7 明徳	1390	2	1450	7	1510	元亀 1	1570	7	1630
辛	未	8 2	1391	3	1451	8	1511	2	1571	8⑩	1631
壬	申	9 3	1392	享徳 1	1452	9	1512	3①	1572	9	1632
癸	酉	明徳 4	1393	2	1453	10	1513	天正 1	1573	10	1633
甲	戌	応永 1	1394	3	1454	11	1514	2⑪	1574	11⑦	1634
乙	亥	2	1395	康正 1	1455	12	1515	3	1575	12	1635
丙	子	3	1396	2	1456	13	1516	4	1576	13	1636
丁	丑	4	1397	長禄 1	1457	14	1517	5⑦	1577	14③	1637
戊	寅	5	1398	2	1458	15	1518	6	1578	15	1638
己	卯	6	1399	3	1459	16	1519	7	1579	16⑪	1639
庚	辰	7	1400	寛正 1	1460	17	1520	8③	1580	17	1640
辛	巳	8	1401	2	1461	大永 1	1521	9	1581	18	1641
壬	午	9	1402	3	1462	2	1522	10	1582	19⑨	1642
癸	未	10	1403	4	1463	3	1523	11①	1583	20	1643
甲	申	11	1404	5	1464	4	1524	12	1584	正保 1	1644
乙	酉	12	1405	6	1465	5	1525	13⑧	1585	2⑤	1645
丙	戌	13	1406	文正 1	1466	6	1526	14	1586	3	1646
丁	亥	14	1407	応仁 1	1467	7	1527	15	1587	4	1647
戊	子	15	1408	2	1468	享禄 1	1528	16⑤	1588	慶安 1①	1648
己	丑	16	1409	文明 1	1469	2	1529	17	1589	2	1649
庚	寅	17	1410	2	1470	3	1530	18	1590	3⑩	1650
辛	卯	18	1411	3	1471	4	1531	19①	1591	4	1651
壬	辰	19	1412	4	1472	天文 1	1532	文禄 1	1592	承応 1	1652
癸	巳	20	1413	5	1473	2	1533	2⑨	1593	2⑥	1653
甲	午	21	1414	6	1474	3	1534	3	1594	3	1654
乙	未	22	1415	7	1475	4	1535	4	1595	明暦 1	1655
丙	申	23	1416	8	1476	5	1536	慶長 1⑦	1596	2④	1656
丁	酉	24	1417	9	1477	6	1537	2	1597	3	1657
戊	戌	25	1418	10	1478	7	1538	3	1598	万治 1⑫	1658
己	亥	26	1419	11	1479	8	1539	4③	1599	2	1659
庚	子	27	1420	12	1480	9	1540	5	1600	3	1660
辛	丑	28	1421	13	1481	10	1541	6⑪	1601	寛文 1⑧	1661
壬	寅	29	1422	14	1482	11	1542	7	1602	2	1662
癸	卯	30	1423	15	1483	12	1543	8	1603	3	1663
甲	辰	31	1424	16	1484	13	1544	9⑧	1604	4⑤	1664
乙	巳	32	1425	17	1485	14	1545	10	1605	5	1665
丙	午	33	1426	18	1486	15	1546	11	1606	6	1666
丁	未	34	1427	長享 1	1487	16	1547	12④	1607	7②	1667
戊	申	正長 1	1428	2	1488	17	1548	13	1608	8	1668
己	酉	永享 1	1429	延徳 1	1489	18	1549	14	1609	9⑩	1669
庚	戌	2	1430	2	1490	19	1550	15②	1610	10	1670
辛	亥	3	1431	3	1491	20	1551	16	1611	11	1671

干	支	年号	西暦	年号	西暦	年号	西暦	年号	西暦	年号	西暦
壬	子	寛文12⑥	1672	17⑤	1732	4②	1792	5②	1852	大正 1	1912
癸	丑	延宝 1	1673	18	1733	5	1793	6	1853	2	1913
甲	寅	2	1674	19	1734	6⑪	1794	安政 1⑦	1854	3	1914
乙	卯	3④	1675	20③	1735	7	1795	2	1855	4	1915
丙	辰	4	1676	元文 1	1736	8	1796	3	1856	5	1916
丁	巳	5⑫	1677	2⑪	1737	9⑦	1797	4⑤	1857	6	1917
戊	午	6	1678	3	1738	10	1798	5	1858	7	1918
己	未	7	1679	4	1739	11	1799	6	1859	8	1919
庚	申	8⑧	1680	5⑦	1740	12④	1800	万延 1③	1860	9	1920
辛	酉	天和 1	1681	寛保 1	1741	享和 1	1801	文久 1	1861	10	1921
壬	戌	2	1682	2	1742	2	1802	2⑧	1862	11	1922
癸	亥	3⑤	1683	3④	1743	3①	1803	3	1863	12	1923
甲	子	貞享 1	1684	延享 1	1744	文化 1	1804	元治 1	1864	13	1924
乙	丑	2	1685	2⑫	1745	2⑧	1805	慶応 1⑤	1865	14	1925
丙	寅	3③	1686	3	1746	3	1806	2	1866	昭和 1	1926
丁	卯	4	1687	4	1747	4	1807	3	1687	2	1927
戊	辰	元禄 1	1288	寛延 1⑩	1748	5⑥	1808	明治 1④	1868	3	1928
己	巳	2①	1689	2	1749	6	1809	2	1869	4	1929
庚	午	3	1690	3	1750	7	1810	3⑩	1870	5	1930
辛	未	4⑧	1691	宝暦 1⑥	1751	8②	1811	4	1871	6	1931
壬	申	5	1692	2	1752	9	1812	5	1872	7	1932
癸	酉	6	1693	3	1753	10⑪	1813	6	1873	8	1933
甲	戌	7⑤	1694	4②	1754	11	1814	7	1874	9	1934
乙	亥	8	1695	5	1755	12	1815	8	1875	10	1935
丙	子	9	1696	6⑪	1756	13⑧	1816	9	1876	11	1936
丁	丑	10②	1697	7	1757	14	1817	10	1877	12	1937
戊	寅	11	1698	8	1758	文政 1	1818	11	1878	13	1938
己	卯	12⑨	1699	9⑦	1759	2④	1819	12	1879	14	1939
庚	辰	13	1700	10	1760	3	1820	13	1880	15	1940
辛	巳	14	1701	11	1761	4	1821	14	1881	16	1941
壬	午	15⑧	1702	12④	1762	5①	1822	15	1882	17	1942
癸	未	16	1703	13	1763	6	1823	16	1883	18	1943
甲	申	宝永 1	1704	明和 1⑫	1764	7⑧	1824	17	1884	19	1944
乙	酉	2④	1705	2	1765	8	1825	18	1885	20	1945
丙	戌	3	1706	3	1766	9	1826	19	1886	21	1946
丁	亥	4	1707	4⑨	1767	10⑥	1827	20	1887	22	1947
戊	子	5①	1708	5	1768	11	1828	21	1888	23	1948
己	丑	6	1709	6	1769	12	1829	22	1889	24	1949
庚	寅	7⑧	1710	7⑥	1770	天保 1③	1830	23	1890	25	1950
辛	卯	正徳 1	1711	8	1771	2	1831	24	1891	26	1951
壬	辰	2	1712	安永 1	1772	3⑪	1832	25	1892	27	1952
癸	巳	3⑤	1713	2③	1773	4	1833	26	1893	28	1953
甲	午	4	1714	3	1774	5	1834	27	1894	29	1954
乙	未	5	1715	4⑫	1775	6⑦	1835	28	1895	30	1955
丙	申	享保 1②	1716	5	1776	7	1836	29	1896	31	1956
丁	酉	2	1717	6	1777	8	1837	30	1897	32	1957
戊	戌	3⑩	1718	7⑦	1778	9④	1838	31	1898	33	1958
己	亥	4	1719	8	1779	10	1839	32	1899	34	1959
庚	子	5	1720	9	1780	11	1840	33	1900	35	1960
辛	丑	6⑦	1721	天明 1⑤	1781	12①	1841	34	1901	36	1961
壬	寅	7	1722	2	1782	13	1842	35	1902	37	1962
癸	卯	8	1723	3	1783	14⑨	1843	36	1903	38	1963
甲	辰	9④	1724	4①	1784	弘化 1	1844	37	1904	39	1924
乙	巳	10	1725	5	1785	2	1845	38	1905	40	1965
丙	午	11	1726	6⑩	1786	3⑤	1846	39	1906	41	1966
丁	未	12①	1727	7	1787	4	1847	40	1907	42	1967
戊	申	13	1728	8	1788	嘉永 1	1848	41	1908	43	1938
己	酉	14⑨	1729	寛政 1⑥	1789	2④	1849	42	1909	44	1969
庚	戌	15	1730	2	1790	3	1850	43	1910	45	1970
辛	亥	16	1731	3	1791	4	1851	44	1911	46	1971